第3回 羽田空港D滑走路破損事案対策検討委員会　議事概要

日時：令和8年11月6日（金）14:00～16:00
場所：経済産業省総合庁舎別館　1120各省庁共用会議室

事務局より説明後、委員等から以下のような発言があった。

○ ゴムジョイント破損メカニズムの因果関係を特定するまでに至らなかったことは、技術者としてじくじたる思いを抱いている。一方で、再発防止策を見いだすことができたのは大変意義のある成果である。

○ 様々な仮定を置いて、追加の検証を行うことは可能かもしれないが、新しい事実が判明しない限り、ゴムジョイント破損メカニズムの因果関係は可能性の範疇をでないことから、着実にゴムジョイント破損の再発防止策を進めていくことが重要である。

○ 必要な試験により、後継伸縮装置の性能を十分に確認した上で、優先箇所から着実に交換を進めるべきである。

○ 構造・材料特性に応じた点検・評価方法を確立し、経過観察を含む点検記録を継続的かつ客観的に蓄積することにより、再発防止策の実効性を確保する必要がある。

○ 羽田空港のような世界有数の混雑空港では、施設破損による影響は極めて大きいことから、本事案を契機として、羽田空港の維持管理、機能更新の在り方について、検討を深めることが望まれる。

以上